1965年10月 日
日本地球電気磁気学会
事務所：東京都文京区弥生２丁目11
東京大学理学部地球物理学教室内
電話 (812) 2111 内線：6476
振替 東京 4860

第38回講演会および総会についての御報せ

本年11月3日より開催されます第38回講演会においては、従来からも同様になっておりました様に、講演申込数が極めて多くなるため、会期を4日間と致しましても必ずしも御要求通りの講演時間を差し上げられるとは限りません。会員各位はこの点御諒承の上講演時間申込の際の2割程度でも清める様にあらかじめ御用意を御願い申上げます。

会誌別刷代価上げについての御報せ

既に会報20号でもお報せしました通り、会誌増改及び印刷費価上げがり等の理由にて、担当委員の会誌売込みの努力にもかかわらず、別刷代価上げの止むをえに至りました。価上げは、従来1冊1部1冊4冊4冊2冊から、国内8冊国4冊の倍増です。但し担当委員と致しましては誠に心苦しい次第でありますのでこの際せてものサービスと致しまして、従来の表紙代と云うのを取り止め、表紙代は無料と云うことと致しました。尚価上げは17巻1号より実施致しました。既に御手許に新しい価格の請求書がとどいて居る方は居られると思いますが宜しく御諒承下さい。

会誌配布について

17巻2号を会報とともに御手許に御届け致します。17巻3号は既に印刷中であり、年内には発送出来るかと思います。17巻4号はヒッパルコスラムポジアムの特集号で総頁と云う膨大なものである。この特集号は会員
新入会員紹介

会報20号以来現在までに下記の方が新たに本学会に入会されました。

氏名（敬称略）所属（又は連絡先）

N. Petersen,  Universität München
両角昌満 東大理，地球物理
松井松長 京都工芸繊維大，工芸学部電気工学
堤 輝男 京都工芸繊維大，工芸学部

また所属変更のありました方々は

坪川家恒 会員 東京大学地球研究所（旧国土地理院）
平尾邦雄 会員 東京大学宇宙航空研究所（旧電波研）
吉田セキ子会員 埼玉県所沢市三ヶ島二海道2433

です。

IAGAニュース

今年9月コペンハーゲンで開かれたIAGA執行委員会議事録（永田評議員が出席）から本学会に関係のある議事を抜粋してみました。以下

人事移動に関して

なくなったBarriner氏の後任，第7委員会のChairman，IQSY特別委大気光Reporter，CIG大気光ReporterにF.Roach氏が選ばれました。又本学会読書委員が第7委 PhotometryのWGのReporterになり，G.Weil氏とJ.Dafay氏が同WGのメンバーに入りました。又次の方々が第6委（Microstructure of magneto Telluric Disturbances）のメンバーになりました。


空中電気測定の標準化に関して，執行委員会は「MKSA System」を使用する様勧告する。（"Physics Today" June 1962, P19-30）
出版に関して
1850年〜2050年をカバーするLunar TableがG.Fanseleun氏によりIAGA・IAMAP連合委の勧告に基づいて出版することが認められました。

Berkeley Transactionは今年中に出版されます。又Helsinki Transactionは来年早々に出版されるでしょう。前者は全1000部後者は全750部です。

Pittsburgh Symposium (Magnetism of the Earth's Interior)のProceedingはIAGA Symposium No.3として本年10月末までに出版されます。これは本学会誌第17巻3〜4合併号として特集されます。IAGAとしては600部を頒布致します。頒布価格は10ドルです。

Aeronomy Symposium (Density and Composition of the Upper Atmosphere, Cambridge)のProceedingはIAGA Symposium No.4として出版されます。

IAGA関係Symposiumについて
1967年度以降開かれるIAGA関係のSymposiumは次の通りです。

1967 "Aurora and Geomagnetic Storms Oslo"
1967 "Recent Development in Geoelectric and Geomagnetic Instrumentation" Basel
1967 "Conjugate Point Experiments"
1968 "A Description of the Earth's Magnetic Field"
1969 "Secular Change"
1969 "Chemical Aeronomy"
1970 "Geocorona and Magnetosphere"
1970 "Solar-Terrestrial Relationships in Selected Special Events"

又第7委は"Laboratory Measurements of Airglow"。
Symposium を IUGG 第14回総会の際に計画しております。
COSPAR で大気光層高の世界的分布研究のプログラムを積極的に推進する様 IAGA から勧告する相です。
又 Roederer より来年 8 月 Belgrade で開かれる Inter-Union Symposium on Solar-Terrestrial Physics に Speaker を受ける旨、次の方々から連絡があった旨報告されました。
A. Solar Particle Streams and Associated Magnetic Fields;
   E.N. Parker and R. Lust
B. The Interaction of Solar Plasma with the Geomagnetic Field;
   I. Quiet Conditions; J.W. Dungey and N.J. Ness
   II. Disturbed Conditions; V.A. Tzotzakaya and T. Obayashi
C. Energetic Particles in the Magnetosphere; B.J. O'Brien and V.A. Komarovsky
D. The Temperature of Neutral and Charged Particles in the Solorosphere and the Magnetosphere;
   K.T. Gringauz and J.V. Evans
IUGG第14回総会について
IUGG第14回総会はスイスの次程の場所に分散して行われます。会期は
9月25日～10月7日、1967年です。
IAG, IASP, IAV and UMC ........................... Zurich
IAGA .................................................. Basel
IAPO and IASH ................................. Berne
IAMAP ................................................. Lucerne
その他
前回のIQSY assembly (Madrid) に際し、幾つかの問題点が IAGA に寄託されました。以下はそれに対する IAGA の活動です。
1. Conjugate Point Experiments の Symposium を計画した。
2. 故 Barhier 氏の提唱による次の大気活動極大期 - 年間の大気光の協同観測計画は新任の Roach 氏にうかがわれた。
3. 1964～65観測期間の重要日指定は第4委 Chairman の Price 氏の下で行う。この件については既に Troitskaya 氏は関連分野においてリストの作製を始めている。
4. 脈動を使って太陽風指数を求めることが特定に第4委 Price 氏の所で検討する。この件は第4委、第5委のメンバーに誌り第14回総会において報告する。

Q - indexed WG について
IAGA WG として臨時的に Q - indices で例けば Planetary Q-indices について検討することになりこの Chairman に福島会員が推薦されました。

以上

(4)